

中小都市における 図書館登録者の読書量調査分析

－北広島市図書館登録者調査を事例として（その2）－

谷 口 一 弘
河 村 芳 行
新 谷 良 文

はじめに

本稿は、平成15年6月1日に実施した北広島市図書館登録者アンケート調査の回答から、「読書量」に関する項目のデータをもとにまとめたものである。

「読書量」に関しては、「あなたの読書量についてお尋ねします」の設問のもと、「この1か月（5月1日から5月31日まで）に、どのくらい読書をしましたか？」と、「本」、「雑誌」（週刊誌と月刊誌別）、及び「マンガ」別に読んだ冊数と、それぞれの入手方法別の回答を得た。

ここでは、アンケート調査で得たデータの分析をとおして、図書館登録者の1か月間の読書量と、その読書対象とした図書類の入手方法、読書傾向、あるいは図書館登録者の図書館利用度いわば図書館への依存度等の実際を知ることによって、今後の新しい図書館サービス計画の指針策定のためのデータ収集を目的としている。

なお、本稿をまとめるにあたり作成実施したアンケートの書式、調査概要、北広島市及び北広島市図書館概要等については、本報告と同じく本紀要に掲載の「中小都市における登録者の図書館利用調査の分析－北広島市図書館登録者調査を事例として（その1）－」を参照されたい。

1 男女別読書量

表1-1は、調査対象期間の5月1日から同月31日までの1か月間での読書量の男女別の集計結果を示したものである。

表1-1 男女別にみる「本」「雑誌」「マンガ」別1か月の読書量

資料 年代	本・冊 (%)	雑誌・種 (%)	マンガ・本 (%)	合計
男 性	1,510 (49.5)	889 (29.2)	649 (21.3)	3,048 (100.0)
女 性	3,149 (54.1)	1,335 (22.9)	1,334 (22.9)	5,818 (100.0)
合 計	4,659	2,224	1,983	8,866

表では、男女共に読書対象として設定した「本」「雑誌」「マンガ」の別でみると、「本」が男性で49.5%、女性で54.1%と女性が男性より約5ポイント程多くなっているが、共に3種類のなかでの1位で、男性は読書量全体のほぼ半分を、女性では5割以上を占める結果となっている。

また、男性で2位の「雑誌」がやや多いともいえるが、全体的にみると男女共に「雑誌」「マンガ」に対する読書量の比率には大きな差はないといえる。これからは、「読書といえば本」のイメージがそのまま数値に表現された結果とみることができる。

表1-2及び表1-3は、読書対象の種別によるその入手方法を男女別に調査した集計である。

この表で、「本」についてその入手方法をみると、男性で32.3%、女性で37.9%と共に「北広島市図書館のもの」が入手方法の1位を占めている。さらにこの入手方法「北広島市図書館のもの」に、「他の図書館のもの」

中小都市における図書館登録者の読書量調査分析

表 1 - 2 読書量<男性>

入手方法	資料 本・冊 (%)	雑誌・種			マンガ・冊 (%)
		週刊誌(%)	月刊誌(%)	小計(%)	
自分で買ったもの	415 (27.5)	133 (25.9)	161 (42.9)	294 (33.1)	180 (27.7)
自宅にあったもの	348 (23.0)	13 (2.5)	62 (16.5)	75 (8.4)	256 (39.4)
北広島図書館のもの	488 (32.3)	182 (35.4)	52 (13.9)	234 (26.3)	13 (2.0)
他の図書館のもの	67 (4.4)	2 (0.4)	5 (1.3)	7 (0.8)	0 (0.0)
学校図書館のもの	34 (2.3)	1 (0.2)	2 (0.5)	3 (0.4)	0 (0.0)
書店での立ち読み	118 (7.8)	157 (30.5)	69 (18.4)	226 (25.4)	95 (14.6)
その他の方法で	40 (2.6)	26 (5.1)	24 (6.4)	50 (5.5)	105 (16.2)
合 計	1,510 (100.0)	514 (100.0)	375 (100.0)	889 (100.0)	649 (100.0)

※ 1 位に網掛け

表 1 - 3 読書量<女性>

入手方法	資料 本・冊 (%)	雑誌・種			マンガ・冊 (%)
		週刊誌(%)	月刊誌(%)	小計(%)	
自分で買ったもの	576 (18.3)	123 (27.0)	327 (37.2)	450 (33.7)	395 (29.6)
自宅にあったもの	722 (22.9)	94 (20.7)	109 (12.4)	203 (15.2)	510 (38.2)
北広島図書館のもの	1,194 (37.9)	33 (7.3)	146 (16.6)	179 (13.4)	31 (2.3)
他の図書館のもの	198 (6.3)	0 (0.0)	15 (1.7)	15 (1.2)	5 (0.4)
学校図書館のもの	128 (4.1)	3 (0.7)	4 (0.5)	7 (0.5)	1 (0.1)
書店での立ち読み	226 (7.2)	133 (29.2)	222 (25.2)	355 (26.6)	91 (6.8)
その他の方法で	105 (3.3)	69 (15.2)	57 (6.5)	126 (9.4)	301 (22.6)
合 計	3,149 (100.0)	455 (100.0)	880 (100.0)	1,335 (100.0)	1,334 (100.0)

※ 1 位に網掛け

及び「学校図書館のもの」を加えた3項目の計でみると、男性で39.0%、女性で48.3%となる。

「本」に限ってみると、読書対象の入手方法としての図書館利用度は男女共に高い比率を示している。特に女性が男性よりおよそ10ポイント高くほぼ入手方法の半分に近い割合となっており、男女共に「本」の入手方法に関しては、図書館への依存度が極めて高いといえる。

「週刊誌」と「月刊誌」とを合わせた「雑誌」でみると、男女共に「自分で買ったもの」が入手方法の1位で、男性33.1%、女性33.7%とほぼ同じ割合である。男性の2位は、「北広島市図書館のもの」が26.3%、3位が「書店での立ち読み」で25.4%とほぼ似た割合となっている。

これに対して女性は、2位が「書店での立ち読み」で26.6%、「北広島市図書館のもの」が13.4%で4位となっている。ここでは、「本」の場合とは反対に「雑誌」に関しては、男性の図書館依存度が高く女性のほぼ2倍となっている。しかし、「雑誌」の入手方法に関しては、「自分で買ったもの」と「書店での立ち読み」が男女に共通して、その順位に関係なく高い比率を示しているのが特徴的である。

「マンガ」に関しては、1位が「自宅にあったもの」で男性39.4%、女性38.2%、2位は「自分で買ったもの」で男性27.7%、女性29.6%、さらに、3位の「その他の方法で」が男性16.2%、女性22.6%と男女共通の結果となっている。

この1位から3位までの入手方法をトータルすると、男性で83.3%、女性で90.4%となり、共に入手方法としては非常に高率の数値となっているが、特に女性の場合は9割を超えている。これは、「マンガ」に関しては、例えば友人・知人などの貸し借りを含む、いわば図書館などの公的機関を頼らない、自力的指向型とでもいうべき傾向が見事に表れた数値といえる。このことは、図書館への依存度は非常に限られたものとして、入手方法の割合も当然そのことを示している。

2 年代別読書量

2-1 全体的傾向

表2-1は、年代別にみた「本」「雑誌」「マンガ」別の1か月の読書量を表したものである。この表で見ると、10代と20代以降とは、読書の量的傾向に明確な相違が現れている。

表2-1 年代別にみる「本」「雑誌」「マンガ」別の1か月の読書量

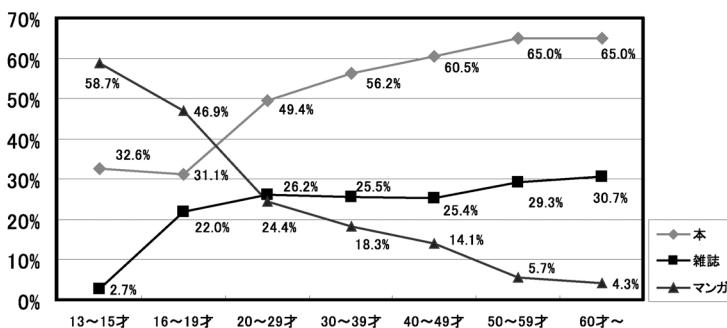
年代	資料	本・冊	雑誌・種	マンガ・本	合計
		(%)	(%)	(%)	
13～15才		237 (32.6)	63 (2.7)	426 (58.7)	726 (100.0)
16～19才		359 (31.1)	254 (22.0)	541 (46.9)	1,154 (100.0)
20～29才		972 (49.4)	515 (26.2)	481 (24.4)	1,968 (100.0)
30～39才		701 (56.2)	318 (25.5)	229 (18.3)	1,248 (100.0)
40～49才		807 (60.5)	340 (25.4)	187 (14.1)	1,334 (100.0)
50～59才		674 (65.0)	304 (29.3)	59 (5.7)	1,037 (100.0)
60才～		909 (65.0)	430 (30.7)	60 (4.3)	1,399 (100.0)
合計		4,659 (52.5)	2,224 (25.1)	1,983 (22.4)	8,866 (100.0)

※1位に網掛け

すなわち、「本」「雑誌」「マンガ」の種別でみた場合、10代では「13～15才」層と「16～19才」層のいずれもが「マンガ」の比率が1位となっている。特に、「13～15才」層での「マンガ」は58.7%と、この年代の読書量のほぼ6割近くを占めている。これが、「16～19才」層では、「マンガ」46.9%と10ポイント程さがり、反対に「雑誌」の比率が22.0%と大幅の増加となっているのが特徴的である。

これに対し、20代以降では各年代層とも「本」が読書量の1位を占めているが、特に高年齢層に従ってその比率が高くなり、50才代以降での読書

図2-1 年代別にみる「本」「雑誌」「マンガ」別1か月の読書量



量は、65%が「本」で占められているのが顕著な特徴である。

一方、「雑誌」でみると、10代の「13~15才」層では2.7%と低い割合であるのに、これが10代の後半「16~19才」層では20%台になると、年齢と共に緩やかな安定的上昇を示し、「60才~」層で30.7%となる小幅な推移を見せている。

図2-1は表2-1をグラフで表示したものである。

この図2-1で見ると、年代による読書傾向の変化がより明瞭になる。すなわち、10代前半の「マンガ」中心から、ハイティーンでの「マンガ」からの過渡期的指向の変化が「雑誌」への読書量増となってくる。そして20代以降からは明らかに「本」へと、読書指向が移行していることである。

つまり、10代前半の読書傾向が10代後半から20代以降、加齢と共に読書対象が「マンガ」から「本」へとその指向が顕著に移行している。一方「雑誌」は、「16~19才」層以降からは、加齢と共に緩やかな上昇を示しながらも読書対象として、年代に変わりなくほぼ安定的に受入れられている。

「雑誌」が、10代後半から各世代に安定的に受入れられているということは、人の生涯にわたる読書対象として定着していることを意味している。この「10代後半」とは、高等学校卒業後の社会人として、あるいは大学・

専門学校等へのステップが一つの分岐点と予測されるが、このことは本アンケート調査の数値だけでは推論の域をでない。今後の検証が必要とされる。

2-2 男女別平均読書量

「本」の1か月の男女別平均読書量を示したものが表2-2であり、これを年代別の平均読書量としてみたものが表2-3である。

表2-2 男女別平均読書量(本)

年代	人数	読書量(冊)	平均(冊)
男性	265	1,510	5.7
女性	538	3,149	5.9
合計	803	4,659	5.8

表2-3 年代別平均読書量(本)

年代	人数	読書量(冊)	平均(冊)
13~15才	30	237	7.9
16~19才	62	359	5.8
20~29才	125	972	7.7
30~39才	120	701	5.8
40~49才	144	807	5.6
50~59才	135	674	5.0
60才~	187	909	4.9
合計	803	4,659	5.8

表2-2で見る1か月の平均読書量では、男性5.7冊、女性5.9冊と大きな差異はみられない。だがこれを表2-3の年代別で見ると、各年代では明らかな差がみられる。すなわち、「13~15才」層では平均7.9冊、「20~29才」層は7.7冊といずれも平均7冊を超える高い数値といえる読書量である。また「16~19才」層及び「30~39才」層は共に5.8冊、「40~49才」層は5.6冊といずれも5冊台のほぼ類似の冊数であるが、これが「50~59才」層では5.0冊、「60才~」層では4.9冊と平均が若干の下降をみ

せている。

2002年6月に実施された、全国学校図書館協議会と毎日新聞社共同の第48回読書調査報告にみる、中学生の「5月1か月間の平均読書冊数」¹⁾では2.5冊となっている。本アンケート調査は、2003年「5月1か月間」と奇しくも1年後の同じ月間の調査となっていて、北広島市図書館登録者の「13～15才」層では平均7.9冊である。

単純比較では、本アンケート調査にみる「13～15才」層の「5月1か月間の平均読書冊数」は、第48回読書調査報告でみる全国平均の3倍強の高い数値を示している。全国調査のサンプル数は3,795名で、本アンケート調査では図書館登録者を対象とした30名と、必ずしも同一条件とはいえないが、しかし、その点を割り引いても子どもの読書離れが懸念されているなかで、本アンケート調査にみる「13～15才」層での月間の平均読書冊数はかなりの高水準であるといえる。この平均7.9冊の数値は、この年代での一般的な平均読書冊数よりも、同年代の図書館利用者の平均読書冊数の方がなお高い水準にあることも裏付けていると言えよう。

もしこの仮定が可能であるとする、この年代層への読書環境の一層の整備・充実あるいは改善などを図ることにより、さらなる読書量の増加が予測されるだけでなく、この層の生涯にわたる図書館ユーザーとしての期待を抱かせるものである。この点で今後、同種の事例研究等による検証が必要である。

また、同じ読書調査報告では高校生の5月の平均読書冊数は、1.5冊である。本アンケートでは、「16～19才」層として特に高校生に限った数値ではないが、それでも平均で5.8冊となっており、参考的数値としてみてもこの年代でも図書館利用者の読書量の多さをうかがうことができる。

3 入手方法

3-1 「本」の入手方法

表3-1は、年代別「本」の入手方法を7手段に設定した集計結果である。

この表でみると、「13～15才」及び「16～19才」層での入手方法の1位は、「自宅にあったもの」でそれぞれ27.2%と33.1%とである。入手方法の2位は、「自分で買ったもの」でそれぞれ19.4%と25.6%である。また、「13～15才」層の3位は「学校図書館のもの」16.0%が入っている。「16～19才」層の3位は「北広島市図書館のもの」17.0%と図書館の利用が増えている。

表3-1 年代別の「本」の入手方法

年代別 入手方法	13～15才 冊(%)	16～19才 冊(%)	20～29才 冊(%)	30～39才 冊(%)	40～49才 冊(%)	50～59才 冊(%)	60才～ 冊(%)	合 計
自分で買ったもの	46 (19.4)	92 (25.6)	151 (15.5)	142 (20.3)	189 (23.4)	146 (21.7)	225 (24.8)	991 (21.3)
自宅にあったもの	65 (27.4)	119 (33.1)	249 (25.6)	121 (17.3)	152 (18.8)	122 (18.1)	242 (26.6)	1,070 (23.0)
北広島図書館のもの	33 (13.9)	61 (17.0)	277 (28.5)	296 (42.2)	314 (38.9)	330 (49.0)	371 (40.8)	1,682 (36.1)
他の図書館のもの	27 (11.4)	15 (4.2)	55 (5.7)	80 (11.4)	44 (5.5)	23 (3.4)	21 (2.3)	265 (5.7)
学校図書館のもの	38 (16.0)	17 (4.7)	92 (9.5)	5 (0.7)	3 (0.4)	3 (0.4)	4 (0.4)	162 (3.5)
書店での立ち読み	22 (9.3)	49 (13.6)	126 (13.0)	26 (3.7)	75 (9.3)	25 (3.7)	21 (2.3)	344 (7.4)
その他の方法で	6 (2.5)	6 (1.7)	22 (2.3)	31 (4.4)	30 (3.7)	25 (3.7)	25 (2.8)	145 (3.0)
合 計	237 (100.0)	359 (100.0)	972 (100.0)	701 (100.0)	807 (100.0)	674 (100.0)	909 (100.0)	4,659 (100.0)

※1位に網掛け

ところが、これが「20～29才」層では「北広島市図書館のもの」28.5%と1位となり、以降各年代層での入手方法の1位が「北広島市図書館のもの」となる。これに「他の図書館のもの」の入手方法を加えると、とくに

「30～39才」と「50～59才」層での入手方法の50%が図書館のものと、その高い図書館依存度が窺われる。

こうしてみると、10代での「本」の入手方法と20才以降でのそれとでは、明らかに違っている。すなわち、10代での入手方法の1位「自宅にあったもの」には、この年代の家庭内での読書環境がその背景として大きなウエイトを持っていることが考えられる。そのことが、「13～15才」層の3位「学校図書館のもの」であり、次いで4位の「北広島市図書館のもの」であり、また「16～19才」層での3位「北広島市図書館のもの」17.0%などにみる図書館利用へと繋がっていく。いわば、入手方法の家庭内から家庭外へと、読書行動範囲の広がりが見えてくるのである。

また、「13～15才」層でも、「学校図書館のもの」16.0%に「北広島市図書館のもの」13.9%及び「他の図書館のもの」11.4%を加えると、41.3%とやはり高い図書館依存度が確かめられる。

北広島市では、各年代を通して図書館利用に対する意識が高く、この結果が数値として現れているとみてよいであろう。また、同じく各年代に共通してみられる入手方法に、「自分で買ったもの」がほぼ20%前後と平均してみられるのも特徴的である。

3-2 「雑誌」の入手方法

年代別に「雑誌」の入手方法をみたものが、表3-2である。

「雑誌」の入手方法としては、各年代に共通して「自分で買ったもの」が平均して30%前後である。この中で、「13～15才」層の「自分で買ったもの」38.1%が比較的高い数値といえるが、特に「16～19才」層の「書店での立ち読み」51.2%が際立った率を示している。

図書館に対する依存度からみると、各年代とも全般的に低く「20～29才」層以降から各年代共10%台の率であるのに、ただ「60才～」層では「北広島市図書館のもの」48.4%と、これまた高い数値を示しているのが特徴的

表3-2 年代別の「雑誌」の入手方法

年代別 入手方法	13~15才 冊(%)	16~19才 冊(%)	20~29才 冊(%)	30~39才 冊(%)	40~49才 冊(%)	50~59才 冊(%)	60才~ 冊(%)	合計
自分で買ったもの	24 (38.1)	72 (28.3)	160 (31.1)	113 (35.5)	134 (39.4)	113 (37.2)	128 (29.8)	744 (34.5)
自宅にあったもの	12 (19.1)	25 (9.8)	77 (15.0)	41 (12.9)	49 (14.4)	48 (15.8)	26 (6.0)	278 (12.5)
北広島図書館のもの	2 (3.2)	13 (5.1)	56 (10.9)	32 (10.1)	49 (14.4)	53 (17.4)	208 (48.4)	413 (18.6)
他の図書館のもの	5 (7.9)	0 (0.0)	9 (1.7)	1 (0.3)	1 (0.3)	5 (1.0)	1 (0.2)	22 (0.9)
学校図書館のもの	0 (0.0)	2 (0.8)	6 (1.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.5)	10 (0.4)
書店での立ち読み	18 (28.6)	130 (51.2)	195 (37.9)	90 (28.3)	63 (18.5)	50 (16.4)	35 (3.1)	581 (26.1)
その他の方法で	2 (3.2)	12 (4.7)	12 (2.3)	41 (12.9)	44 (12.9)	35 (12.5)	30 (7.0)	176 (7.9)
合計	63 (100.0)	254 (100.0)	515 (100.0)	318 (100.0)	340 (100.0)	304 (100.0)	430 (100.0)	2,224 (100.0)

※1位に網掛け

である。

「雑誌」の入手方法では、各年代に共通した「自分で買ったもの」のほかに、「書店での立ち読み」が「13~15才」から「30~39才」層まではやはり高い率を示している。しかし、これが40代以降からは下降し「60才~」層で「書店での立ち読み」が3.1%になり、「北広島市図書館のもの」48.4%を裏付ける数値となっている。

このように、「60才~」層の「書店での立ち読み」が減少し図書館依存度が高くなるのは、「本」や「マンガ」にも共通してみられる傾向であるが、この年代からの高齢者層の「書店での立ち読み」は、体力的にも辛さを感じさせ、あるいは「立ち読み」に対する若年層との意識の相違などがあるのではないかと考えられる。また、「自分で買ったもの」のポイントの減少がみられるのは、高齢者層における経済的理由も背景として考慮しなければならないであろう。

3-3 「マンガ」の入手方法

表3-3は、年代別による「マンガ」の入手方法を集計したものである。

この表からは、「13～15才」から「30～39才」層の入手方法の1位が、いずれも「自宅にあったもの」となっている。そして、2位が「自分で買ったもの」となっているが、「マンガ」の入手方法での全体的傾向としては、10代での「自宅にあったもの」から、年齢と共に「自分で買ったもの」への割合が増えている。次いで、「その他の方法で」が、各年代に平均的に2割前後にわたっている。

ただ、「50～59才」層が、この全体的傾向とは別に「自分で買ったもの」は僅かに3.4%であり、反対に「その他の方法で」37.3%、次いで「書店での立ち読み」33.9%と、他の年代とは異なる数値を示している。この点については、この年代のサンプル数も少なく今回のアンケート調査だけでは、明確な理由を見いだせない。

表3-3 年代別の「マンガ」の入手方法

年代別 入手方法	13～15才 冊(%)	16～19才 冊(%)	20～29才 冊(%)	30～39才 冊(%)	40～49才 冊(%)	50～59才 冊(%)	60才～ 冊(%)	合 計
自分で買ったもの	102 (23.9)	144 (26.6)	144 (29.9)	72 (31.4)	73 (39.0)	2 (3.4)	38 (63.3)	575 (29.0)
自宅にあったもの	187 (43.9)	214 (39.6)	193 (40.1)	104 (45.4)	44 (23.5)	15 (25.4)	9 (15.0)	766 (38.6)
北広島図書館のもの	0 (0.0)	0 (0.0)	11 (2.3)	5 (2.2)	23 (12.3)	0 (0.0)	5 (8.3)	44 (2.2)
他の図書館のもの	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (2.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (0.3)
学校図書館のもの	1 (0.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.1)
書店での立ち読み	36 (8.5)	57 (10.5)	52 (10.8)	10 (4.4)	11 (5.9)	20 (33.9)	0 (0.0)	186 (9.4)
その他の方法で	100 (23.5)	126 (23.3)	81 (16.8)	33 (14.4)	36 (19.3)	22 (37.3)	8 (13.3)	406 (20.5)
合 計	426 (100.0)	541 (100.0)	481 (100.0)	229 (100.0)	187 (100.0)	59 (100.0)	60 (100.0)	1,983 (100.0)

※1位に網掛け

「マンガ」に関しては、各年代層を通して図書館への依存度は殆ど見られないというべきであろうが、ただその中で「北広島市図書館のもの」として、「40～49才」層が12.3%、「60才～」層で 8.3%と若干の利用率がみられるのに対し、やはり「50～59才」層が 0%であるのが特徴的となっている。

北広島市図書館が所蔵する「マンガ」としては、例えば「サザエさん」や「ブラック・ジャック」など、古典的な評価を得ているものが中心であり、中高年齢層の利用率がそれを裏付けている。このことは、図書館での収集対象として、「マンガ」の位置づけを判断する一つの指針となり得るものと考えられる。

4. 職業別読書量

4-1 全体的傾向

表4-1は、職業別にみた「本」「雑誌」「マンガ」別の1か月の読書量を集計したものである。

表4-1 職業別にみる「本」「雑誌」「マンガ」別1か月の読書量

資料 職業別	本・冊 (%)	雑誌・種 (%)	マンガ・冊 (%)	合 計
自営・家族従業者	39 (45.3)	22 (25.6)	25 (29.1)	86 (100.0)
勤務者	1,537 (54.3)	814 (28.8)	477 (16.9)	2,828 (100.0)
主婦	1,393 (66.7)	465 (22.3)	229 (11.0)	2,087 (100.0)
学生	870 (36.1)	466 (19.3)	1,076 (44.6)	2,412 (100.0)
無職	820 (56.4)	457 (31.5)	176 (12.1)	1,453 (100.0)
合 計	4,659 (52.5)	2,224 (25.1)	1,983 (22.4)	8,866 (100.0)

※1位に網掛け

これで見ると、〈学生〉層を除く〈自営・家族従業者〉〈勤務者〉〈主婦〉及び〈無職〉層のいずれもが、1位は「本」となっている。なかでも、〈主婦〉層では66.7%と極めて高率で、次いで「無職」層の56.4%さらに「勤務者」層の54.3%となっており、いずれも50%を超えた高い率となっている。ただ〈学生〉層の1位は「マンガ」で44.6%、「本」は36.1%の2位である。

2位については、「雑誌」もしくは「マンガ」と各層によりバラバラであるが、全体としてみると1か月の読書量のうち50%強が「本」である。

4-2 職業別にみた読書量と入手方法

表4-2は、職業別にみた「本」「雑誌」「マンガ」の読書量とその入手方法を集計したものである。

この表で見ると、各層での「本」を中心とした読書、そしてその入手方法では、〈学生〉層を除く各層でいずれも「北広島市図書館のもの」が1位となっている。なかでも、〈自営・家族従業者〉と〈主婦〉層とが50%を超えた極めて高い北広島市図書館依存度である。

また〈学生〉層にしても、表での「学校図書館のもの」の大部分は、自らの所属する大学等の図書館を指すとみるならば、これに「他の図書館のもの」をも加えると、その図書館利用は37.5%となり決して低い利用率とはいえない。

こうしてみると、「本」を中心とした図書館依存度の高さは各層に共通してみられる図書館への信頼度、つまりは北広島市図書館への信頼の高さの現れであるといえる。

4-2-1 自営・家族従業者層

〈自営・家族従業者〉層では、「本」の入手方法の1位は、「北広島市図書館のもの」69.2%とほぼその7割を示している。「雑誌」についても、

中小都市における図書館登録者の読書量調査分析

表 4-2 職業別にみた読書量とその入手方法

入手方法	資料	本・冊 (%)	雑誌・種 (%)	マンガ・冊 (%)	合計
自分で買ったもの	自営・家族	6 (15.4)	5 (22.7)	25 (100.0)	36 (41.9)
	勤務者	390 (25.4)	315 (38.7)	149 (31.2)	854 (30.2)
	主婦	209 (15.0)	175 (37.6)	90 (39.3)	474 (22.7)
	学生	206 (23.7)	139 (29.8)	249 (23.1)	594 (24.6)
	無職	180 (22.0)	110 (24.1)	62 (35.2)	352 (24.2)
自宅にあったもの	自営・家族	4 (10.3)	3 (13.6)	0 (0.0)	7 (8.1)
	勤務者	299 (19.5)	97 (11.9)	172 (36.1)	568 (20.1)
	主婦	318 (22.8)	68 (14.6)	64 (27.9)	450 (21.6)
	学生	227 (26.1)	62 (13.3)	468 (43.5)	757 (31.4)
	無職	222 (27.1)	48 (10.5)	62 (35.2)	332 (22.8)
北広島図書館のもの	自営・家族	27 (69.2)	12 (54.5)	0 (0.0)	39 (45.3)
	勤務者	520 (33.8)	88 (10.8)	16 (3.4)	624 (22.1)
	主婦	700 (50.3)	80 (17.2)	18 (7.9)	798 (38.2)
	学生	127 (14.6)	16 (3.4)	0 (0.0)	143 (5.9)
	無職	308 (37.6)	217 (47.5)	10 (5.7)	535 (36.8)
他の図書館のもの	自営・家族	1 (2.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.2)
	勤務者	131 (8.5)	12 (1.5)	5 (1.0)	148 (5.2)
	主婦	56 (4.0)	1 (0.2)	0 (0.0)	57 (2.7)
	学生	51 (5.9)	8 (1.7)	0 (0.0)	59 (2.4)
	無職	26 (3.2)	1 (0.2)	0 (0.0)	27 (1.9)
学校図書館のもの	自営・家族	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	勤務者	8 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (0.3)
	主婦	7 (0.5)	2 (0.4)	0 (0.0)	9 (0.4)
	学生	145 (16.7)	8 (1.7)	1 (0.1)	154 (6.4)
	無職	2 (0.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.1)
書店での立ち読み	自営・家族	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	勤務者	123 (8.0)	206 (11.8)	57 (11.9)	386 (13.6)
	主婦	60 (4.3)	96 (20.7)	16 (7.0)	172 (6.1)
	学生	94 (10.8)	219 (47.0)	79 (25.9)	392 (16.3)
	無職	67 (8.2)	60 (13.1)	34 (19.3)	161 (11.1)
その他の方法で	自営・家族	1 (2.6)	2 (9.1)	0 (0.0)	3 (3.5)
	勤務者	66 (4.3)	96 (11.8)	78 (16.4)	240 (8.5)
	主婦	43 (3.1)	43 (9.3)	41 (17.9)	127 (6.1)
	学生	20 (2.3)	14 (3.0)	279 (25.9)	313 (13.0)
	無職	15 (1.8)	21 (4.6)	8 (4.5)	44 (3.0)
合計	自営・家族	39 (100.0)	22 (100.0)	25 (100.0)	86 (100.0)
	勤務者	1,537 (100.0)	814 (100.0)	477 (100.0)	2,828 (100.0)
	主婦	1,393 (100.0)	465 (100.0)	229 (100.0)	2,087 (100.0)
	学生	870 (100.0)	466 (100.0)	1,076 (100.0)	2,412 (100.0)
	無職	820 (100.0)	457 (100.0)	176 (100.0)	1,453 (100.0)

※ 1位に網掛け

同様に「北広島市図書館のもの」が1位で 54.5 %の高い率であるが、「マンガ」は 100%「自分で買ったもの」となっている。

このことは、〈自営・家族従業者〉層における「本」「雑誌」に対する図書館依存度が極めて高いことを示している。職業的条件からくる制約で

あろうか、他の職業層で見られる「書店での立ち読み」が、「本」「雑誌」「マンガ」のいずれも 0%であるのも大きな特徴となっている。

〈自営・家族従業者〉層での「本」「雑誌」「マンガ」の全体を通してみると、1位が「北広島市図書館のもの」45.3%、2位が「自分で買ったもの」41.9%となり、高い図書館利用率を示していると共に、この1位と2位とで入手方法のほぼ9割近くを占めるのが特徴である。

4-2-2 勤務者層

〈勤務者〉層での「本」「雑誌」「マンガ」のそれぞれで、その入手方法が異なっているのが特徴的であり、また「本」「雑誌」「マンガ」のいずれにも、ある程度の率で「書店での立ち読み」が見られるのもこの〈勤務者〉層の特徴でもある。

「本」の入手方法は、「北広島市図書館のもの」33.8%で1位であるが、これに「他の図書館のもの」と「学校図書館のもの」とを加えると42.8%となり、「本」の入手に関しては、やはり図書館依存度が高い率を示している。

「雑誌」に関しては、38.7%の「自分で買ったもの」が1位、次いで「書店での立ち読み」25.3%となり、この両方を合わせると60%を超える。これは、〈勤務者〉層として経済的に自立的な立場であると共に、「雑誌」のもつ速報性が、モビリティの高いこの層の要求に合致した結果であるとみることができる。

「マンガ」では、1位の「自宅にあったもの」36.1%と2位の「自分で買ったもの」31.2%とを合わせるとほぼ7割近い率を示し、図書館での利用者は極めて少ない結果となっている。「その他の方法で」16.4%、「書店での立ち読み」11.9%などと合わせ考えると、「マンガ」などは、自分で何とかするものだという意識の現れとも受け取れる。

〈勤務者〉層での「本」「雑誌」「マンガ」の全体を通してみると、入手

方法の1位は「自分で買ったもの」30.2%、2位は「北広島市図書館のもの」22.1%、3位が「自宅にあったもの」20.1%となっており、この1位から3位の入手方法がほぼ平均的な読書行動として見られる。ただし、「本」「雑誌」「マンガ」それぞれの読書総冊数で見ると、「本」の読書冊数1,537冊は、「雑誌」と「マンガ」の合わせた読書冊数より多い数値となっている。

4-2-3 主婦層

〈主婦〉層での「本」の入手方法は、1位が「北広島市図書館のもの」で50.3%と高い図書館依存率がみられる。続いて、2位「自宅にあったもの」22.8%、3位「自分で買ったもの」15.0%となっている。

これに対して、「雑誌」については、「自分で買ったもの」37.6%で1位、2位が「書店での立ち読み」20.7%、3位が「北広島市図書館のもの」17.2%と続いている。「雑誌」に関しては、「書店での立ち読み」が目立ち、反対に図書館利用が低くなっているのが特徴的である。

それが「マンガ」では、1位「自分で買ったもの」39.3%、2位「自宅にあったもの」27.9%となり、この両方を合わせると入手方法のおよそ7割を占めることになる。これに3位の「その他の方法で」の17.9%を合わせると85.1%となり、「マンガ」は“図書館以外で”の意識・傾向がこの〈主婦〉層でも明確にみられる。このことは、図書館での収書対象からマンガを除くか、あるいは限定的な条件設定による収書として、むしろ（例えば趣味・娯楽性の強い）雑誌の種類を増やすことも、収書に対する一つの選択肢として考えられる。

〈主婦〉層での「本」「雑誌」「マンガ」の全体を通してみると、その入手方法の1位は、「北広島市図書館のもの」38.2%である。2位は「自分で買ったもの」22.7%、3位は「自宅にあったもの」21.6%となっており、〈主婦〉層においても図書館依存度が高いことがわかる。

また、〈主婦〉層での「本」「雑誌」「マンガ」それぞれの読書総冊数をみると、「本」の冊数が「雑誌」と「マンガ」を合わせた総冊数より2倍強の読書冊数となっていて、日常的な読書対象としては、「本」がその中核であることが分かる。

4-2-4 学生層

〈学生〉層の「本」の入手方法は、1位が「自宅にあったもの」26.1%、2位が「自分で買ったもの」23.7%の順となっていて、合わせると49.8%とほぼ5割近い率になる。「北広島市図書館のもの」が14.6%となっており、これに「他の図書館のもの」5.9%と「学校図書館のもの」16.7%とを加えると37.2%と、やはり図書館の利用という点では比較的に高い率といえる。〈学生〉層の多くは、所属する高等学校や大学などの図書館利用が日常的であることを考慮すると、入手方法としての「学校図書館のもの」16.7%が、「北広島市図書館のもの」14.6%より高い率なのは当然ともいえる。

「雑誌」については、「書店での立ち読み」が47.0%で1位と高い率で、2位の「自分で買ったもの」29.8%、3位の「自宅にあったもの」13.3%とを合わせると「雑誌」入手方法の9割を超える。同様に、「マンガ」についても、1位の「自宅にあったもの」43.5%に2位の「その他の方法で」25.9%、及び3位「自分で買ったもの」23.1%とを合わせると、これも9割を超える入手方法を占めることになる。

〈学生〉層での「本」「雑誌」「マンガ」の全体を通してみると、1位が「自宅にあったもの」で31.4%、2位が「自分で買ったもの」24.6%である。これに対して、「北広島市図書館のもの」と「他の図書館のもの」及び「学校図書館のもの」を合わせても14.7%であり、図書館への依存度としては極めて低いとみるべきである。

このことは、〈学生〉層での「本」「雑誌」「マンガ」の読書総冊数が、

「マンガ」 1,076冊、「本」 870冊、「雑誌」 466冊である数値にも裏付けられている。

4-2-5 無職層

〈無職〉層の入手方法でも、「本」に関しての1位は、「北広島市図書館のもの」で37.6%となっている。2位は「自宅にあったもの」27.1%、次いで「自分で買ったもの」22.0%と続いている。しかし、「北広島市図書館のもの」37.6%に「他の図書館のもの」3.2%と「学校図書館のもの」0.2%とを合わせると、41.0%となり、やはり図書館利用が高い率をみせている。

「雑誌」では、これもやはり「北広島市図書館のもの」47.5%が1位と、高い利用率で図書館依存度を見せている。2位が「自分で買ったもの」24.1%、3位に「書店での立ち読み」13.1%となっている。

「マンガ」では、「自分で買ったもの」と「自宅にあったもの」が共に35.2%で1位となっており、この二つを合わせると入手方法の7割を超える率となる。次いで、「書店での立ち読み」19.3%と続く。

〈無職〉層での「本」「雑誌」「マンガ」の全体を通してみても、入手方法はやはり「北広島市図書館のもの」36.8%と、高い利用率となっている。次いで、「自分で買ったもの」と「自宅にあったもの」が続いている。

これを、「本」「雑誌」「マンガ」それぞれの読書総冊数で見ても、「本」が820冊、「雑誌」が457冊、「マンガ」176冊と「本」の読書冊数がやはり多いことから明らかである。

4-3 職業別にみる平均読書冊数

職業別にみた「本」の1か月の平均読書冊数を表したものが、表4-3である。

この表でみると、〈自営・家族従業者〉層の1か月平均読書冊数 3.0冊

表4-3 職業別にみる「本」の1か月平均読書冊数

職業	人数	本	平均冊数
自営・家族従業者	13	39	3.0
勤務者	279	1,537	5.5
主婦	262	1,393	5.3
学生	127	870	6.9
無職	119	820	6.9
合計	800	4,659	5.8

※職業不明者3名を除く

以外では、いずれも平均5冊以上であり、また〈自営・家族従業者〉層をも含めた全体平均でも5.8冊となる。これは、単純計算で年間読書冊数およそ70冊と高い水準を示す数値となる。

「本」の1か月の平均読書冊数としては、〈学生〉層と〈無職〉層とが共に6.9冊で1位であり、この数値から年間80冊を超える極めて高い読書量が推測される。この〈学生〉層は「本」「雑誌」「マンガ」の読書量では、「マンガ」が読書冊数としてのトータル読書量が多いにもかかわらず（表4-1）、1か月の平均読書冊数では「本」の利用率でも決して低くないことを示している。

読書離れを言われるなかで、北広島市図書館登録者の「本」の読書量は、1か月の平均読書冊数から見るかぎり高水準にあり、これが北広島市図書館を支える大きな要因の一つでもあるといえる。

まとめ

- 1) 読書対象として「本」の占める割合は、男性は読書量全体のほぼ半分を、女性では5割以上を「本」が占めている。その「本」の入手方法をみると、「北広島市図書館のもの」と「その他の図書館のもの」及び「学校図書館のもの」とを合わせた計では、男性が39.0%、女性は48.3%で特に女性でのいわゆる図書館依存率は「本」の読書量のほぼ半分を占める高い率である。

- 2) 年代別にみると読書対象の指向が、10代前半の「マンガ」(58.7%) 中心から10代後半では「マンガ」(46.9%) から過渡期的に「雑誌」(2.7%から22.0%) へと比率の移行がみられる。これが、20代以降では各年代層とも「本」が読書量の1位となるが、特に高年齢層ほどにその率が高くなり、50代以降では読書量の65.0%を「本」が占めていることが確認された。
- 3) 「雑誌」は、10代後半から20%を示すと以後高齢期までどの年代層にかかわりなく、読書量の20~30%台を安定的に一定の読書対象として受け入れられている。
- 4) 北広島市図書館登録者の1か月間の平均読書冊数では、男性 5.7冊、女性 5.9冊と性別には大きな差異はみられない。これを年間読書量で見ると男女共およそ60~70冊の高い数値を示すことになる。
- 5) 「13~15才」層での、北広島市図書館登録者の1か月の平均読書冊数 7.9冊は、同年代の全国平均 2.5冊より3倍強の高い率を示している。このことは、一般的な同年代の平均読書冊数よりも同年代の図書館登録者の方が読書量が多いことが分かる。
- 6) 読書対象としての「本」の入手方法については、20才以降になると各年代層とも「北広島市図書館のもの」が1位となっている。このことは、10代での1位「自宅にあったもの」、つまりはこの年代の家庭内の読書環境がその後の図書館利用へと結びつく結果となっている。
- 7) 北広島市図書館登録者では、「16~19才」層を除く各年代層での図書入手の図書館依存率が平均して高い。中でも「30~39才」と「50~59才」層では、「北広島市図書館のもの」「他の図書館のもの」及び「学校図書館のもの」を合わせると、5割を超える図書館依存率になる。
- 8) 「雑誌」及び「マンガ」の入手方法では、「自分で買ったもの」「自宅にあったもの」あるいは「書店での立ち読み」など各年代層により差異があるが、平均的には図書館への依存度は低く、特に各年代共に

「マンガ」における図書館依存は殆どみられない。

- 9) 職業別でみた入手方法のうち〈自営・家族従業者〉層では、「本」69.2%、「雑誌」は54.5%の共に極めて高率の北広島市図書館依存となっているが、「マンガ」に関しては100%「自分で買ったもの」というのもまた、他の職業層にはみられない率である。
- 10) 〈勤務者〉層では「本」「雑誌」「マンガ」でそれぞれ入手方法が異なっているのが特徴である。このうち、「雑誌」の「書店での立ち読み」が目立っている。また、「本」「雑誌」「マンガ」それぞれの読書総冊数で見ると、「本」の読書冊数は、「雑誌」と「マンガ」の合わせた読書総冊数より多い数値となっている。
- 11) 〈主婦〉層の入手方法では、「本」は「北広島市図書館のもの」(50.3%)が極めて高い率を示している。これに、「他の図書館のもの」と「学校図書館のもの」とをあわせると、〈主婦〉層での読書量の半分以上が図書館での利用ということになり、その「本」の読書総冊数は、「雑誌」と「マンガ」をあわせた読書総冊数の約2倍の量となっている。また、「雑誌」と「マンガ」では、「自分で買ったもの」が入手方法の4割近くを占めている。
- 12) 〈学生〉層での入手方法では、「本」については「自宅にあったもの」(26.1%)と「自分で買ったもの」(23.7%)とほぼ似た率であるが、一方、「北広島市図書館のもの」(14.6%)と「他の図書館のもの」(5.9%)及び「学校図書館のもの」(16.7%)とを合わせると37.2%と高い図書館依存率になる。「雑誌」では、「書店での立ち読み」が47.0%と高く、これに「自分で買ったもの」(29.8%)と「自宅にあったもの」(13.3%)を合わせると「雑誌」入手方法の9割を超える。「マンガ」についても同様に、「自宅にあったもの」「その他の方法で」「自分で買ったもの」とでやはり9割を超える。
- 13) 各職業別での「本」「雑誌」「マンガ」別読書量では、〈学生〉層以外

では各層共通して「本」が1位となっているが、なかでも、〈主婦〉層66.7%と特に高い率をみせている。

- 14) 職業別読書量を全体でみると、1か月の読書量のうち50%強が「本」であり、その入手方法では、〈学生〉層を除く各職業層いずれも「北広島市図書館のもの」が1位（表 4-2）である。なかでも、〈自営・家族従業者〉層と〈主婦〉層とが共に50%を超えた北広島市図書館依存度である。
- 15) 職業別でみた「本」の1か月平均読書量では、〈自営・家族従業者〉層を除く各職業層とも、月平均5冊以上である。なかでも、〈学生〉層と〈無職〉層が共に平均 6.9冊でこの数値は、1人当たり週におよそ 1.5冊の読書量となる。

〈注〉

- (1) 全国SLA 研究・調査部 「第48回読書調査報告」 『学校図書館』
通巻 625号 2002.11 p.12-17

